

インタビュー 三菱電機㈱執行役員 国際本部地域戦略部長 松下 聡氏

新“世界の工場”、メキシコから世界へ

三菱電機が、2020年度に向け成長を加速させている。連結売上高を2014年度の4兆3230億円から5兆円以上に引き上げる計画だ。その重要な戦略がグローバル事業の強化で、中でも注力している新興国市場がメキシコを中心とする中南米だ。同社のメキシコ事業は1960年代から始まり長い歴史と豊富な実績を持っている。2013年には自動車機器事業でも進出した。全世界の新興国市場に対する地域戦略を推進している松下聡執行役員にメキシコに対する事業戦略をお聞きした。

(聞き手：本誌編集長 荒井俊則)



MELMEX 本社 (メキシコ市)

約50年間の事業、昇降機から発展

—現在の事業体制はいかがですか

メキシコではこれまで約50年にわたって事業を行ってきており、現在も大変力を入れています。中南米では最大の事業拠点で、4社を持っています。首都メキシコシティに、昇降機、地下鉄車両用のモーターやそのスピードを変えるためのインバーターといった交通用電機品の製造販売を行う「三菱電機メキシコ社」(略称「MELMEX」)を設立しています。同社はメキシコシティ周辺のケタロ州に2つの工場を持っています。

また、エンジンのスターターやカーマルチメディアなどの自動車機器を製造販売する「三菱電機オートモーティブ・メキシコ社」(略称「MEAX」)を同じくケタロ州に設立しています。メキシコは太平洋と大西洋の両方に面していて、メキシコシティおよびその周辺は天然の良港であるマンザニョロ港(太平洋側)とベラクルス港(大西洋側)にほぼ等距離にあり、非常に良い立地となっています。

さらに主に北米向けにエアコンの製造を行う「PIMS社」と昇降機の製造を行う「Internacional de Elevadores社」の2社を米国境近くに設立しています。主に日系自動車メーカーの工場内のファクトリーオートメーション機器をサポートする部門もメキシコシティに置いています。

—進出の経緯を教えてください

1960年代から衛星通信、電力関係などインフラ関係のビジネスを始めました。68年のメキシコオリンピックでは、テレビ中継を行うための衛星通信用のアンテナを納入しました。また同じ頃メキシコ電力庁からは発電機を受注しました。

これらを基に70年代から本格的な事業展開を開始し、まず70年に昇降機の販売を開始しました。76年には昇降機の販売、保守を一体的に行うために初めて現地法人MELMEXを設立しました。78年、メキシコシティの地下鉄「メキシコシティメトロ」(以下メキシコメトロ)から交通用電機品を大量に受注したのに伴い、翌年現地生産を行うためMELMEXに工場を新設しました。80年代以降は昇降機、交通用電機品の本格的な現地生産、現地販売体制を確立しました。当初は、メキシコ国内でのプレゼンスを向上していった時代といえます。

三菱電機のメキシコ拠点

会社名	事業内容	設立年月	所在地
Mitsubishi Electric de Mexico, S.A. de C.V. (三菱電機メキシコ)	昇降機の製造、販売、据付、保守および交通用電機品の製造、販売、保守	1976年 4月	本社：メヒコ州メキシコ市 工場：ケタロ州サン・ファン・デル・リオ市
Mitsubishi Electric Automotiva de Mexico, S.A. de C.V. (三菱電機オートモーティブ・メキシコ)	自動車用電装品およびカーメカトロニクス・カーマルチメディア製品の製造・販売	2013年 3月	ケタロ州エルマルケス市
PIMS, S.A. de C.V.	空冷機器の製造	1994年 3月	バハ・カリフォルニア州メヒカリ市
Internacional de Elevadores, S.A. de C.V.	昇降機の製造	1982年	バハ・カリフォルニア州ブラヤス・デ・ロサリト市